



高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088 - 821 - 2000 四国山の目

FAX 088 - 821 - 4834

ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)

No.1067 2009年2月号

### 日頃の森林・林業に関する研究成果を発表

### 四国森林・林業研究発表会を開催



「学校林を活用した森林環境学習（<sup>とびが いけ</sup> 鳶ヶ池中学校学校林活動）」を発表した南国市立鳶ヶ池中学校の皆さんは、四国森林管理局長賞（優秀賞）を受賞しました。



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

## 四国森林・林業研究発表会を開催

〈指導普及課〉



一月二十二日・二十三日、四国森林管理局大会議室において、「平成二十年四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

まず、中山森林管理局長から、今回発表される課題は、国民のニーズに応えた多様な森林づくりや民有林・国有林との連携、ニホンジカ食害防止対策、森林環境教育など幅広い内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくり



開催の挨拶をする中山局長

などに反映されることを期待します。」と挨拶がありました。五十六回目を迎えた今年の研究発表会は、全部で二二課題と昨年より、四課題も多く、特に、ニホンジカによる食害に関する発表が七課題あり、早急に取り組むべき課題であることを再確認させられました。また、南国市立鷹ヶ池中学校、高知県立高知工業高等学校及び高知県立高知農業高等学校から、学習活動の一環として取り組んでいる内容に



高知農業高校生の発表

ついて発表があり、会場から多くの拍手が送られました。また、特別講演を二題行い、一日目には、京都大学名誉教授の河合雅雄氏による「二十一世紀の里山を考える」と題



講演される河合雅雄氏

した講演を行いました。河合氏からは、「国土の約二十%を占める里山が遊休化していることは、まさに国家的損失である。その最大の原因は、野生動物の反乱であり、最近、野生動物（イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルなど）による農作物被害が急増している。里山をどのように再生するかは、大変重要な課題であり、その解決策を提示するのは非常に難しい。一つの試論として、森林資源の活用は、大別して、①生産資源、②環境資源、③文化資源の三つがあり、前二者の活用については、わが国は精力的に取り組む、成果を上げてきた。しかし、森林の文化的利用については、殆ど視野に入っていないかった。

このため、里山を文化資源として新生することが、今後重要である。文化資源としての利活用を加え、三分野を柱にして、新たな里山をデザインすべき」との講演をいただきました。

二日目には、土佐の森・救援隊事務局長の中嶋健造氏による「放置林は宝の山 小規模林業の復活で、森林と山村の再生を」と題した講演を行いました。中嶋氏からは、「自



講演される中嶋健造氏

らの山を自ら整備する「自伐林家」は、とてもいい森（森林の多面的機能を十分発揮する森林）を造る。自伐林家は、自からの山であることから愛情がこもり、頻繁に山に入り整備する。また、永く収入を得ようとするために、長伐期施業を指向する低投資型林業となり、不安定な経済状況下でも柔軟に対応できる。最近、注目を浴びてきた、木質バイオマスの収集運搬は、自伐林家の、新たな収入源（副業）

となることがわかった。山村振興のためには、遠回りのようだが、自伐林家の施業をする方々を増やすことが早道ではないか。」との講演をいただきました。

表彰については、四国森林管理局長賞として七課題（最優秀賞一課題、優秀賞四課題、奨励賞二課題）、（社）日本森林技術協会理事長賞、また、（財）日本森林林業振興会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた高知県嶺北林業振興事務所の諏訪貴信さんの発表は、地域材利用を推進していくための、「顔の見える木材の家づくり」の取組として、先駆的な取組であることが高く評価されました。



最優秀賞を受賞した諏訪貴信さん

なお、今回の発表課題と審査結果は次頁のとおりです。

## 発表課題・審査結果

発表順	発 表 課 題	発 表 者			審 査 結 果
		所 属	氏 名		
1	地球温暖化傾向に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業について	局森林技術センター	田ノ上真司		
2	身近な自然に親しむことから森林学習の導入について	あきネイチャー 安芸森林管理署	松本 孝 串山大樹		
3	高知城観光案内所の製作	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	山本和之 市原良太 江西宏介	久保勇太 西田佳祐	四国森林管理局 長賞（奨励賞）
4	スギ省力施業技術の研究 ～大苗植栽による施業省力化～	徳島県農林水産総合技術支 援センター	西澤 元		（審査対象外）
5	作業道における丸太組工の桁丸太劣化度 評価について	（独）森林総合研究所 松山水源林整備事務所	脇坂芳夫		四国森林管理局 長賞（優秀賞）
6	景観に配慮した資源林の搬出について	四万十森林管理署	福山敦之 山下茂樹	猪迫啓司 中尾栄二	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
7	「学校林を活用した森林環境学習」（鳶ヶ池中学校学校林活動）	南国市立鳶ヶ池中学校 3年生	野島真奈美	川上菜央	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
8	森林土木工事で県産材（間伐材）の需要 拡大を～治山ダム・土留工に木製残存型 枠を使用～	愛媛県森林局森林整備課 愛媛県森林組合連合会	西田剛士	山口修司	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
9	竹紙の生産と普及	高知県立高知農業高等学校 森林総合科2年生	牛田剛平 円谷友昭	横田明来	四国森林管理局 長賞（奨励賞）
10	土佐褐毛牛と電気牧柵による育林効果の 検証～下刈り効果とシカ害軽減の可能性 について～	高知県森林技術センター	深田英久	渡辺直史	（審査対象外）
11	保護チューブによる成長促進効果と新た な施業方法の検討	局森林技術センター	鷹野孝司		（財）日本森林林 業振興会長賞
12	ニホンジカが自然林の植生に及ぼす影響 について	徳島県農林水産総合技術支 援センター	森 一生		（審査対象外）
13	滑床山国有林シカ被害地の植生回復への 取組み	四万十川森林環境保全ふれ あいセンター	石黒和博	隅田雄二	
14	ニホンジカによる天然林の剥皮被害につ いて～滑床山・黒尊山国有林の森林被害 に関する調査成果より～	（独）森林総合研究所四国 支所	奥村栄朗 伊藤武治	奥田史郎	（審査対象外）
15	法面緑化におけるシカ害軽減方法の検討 について	嶺北森林管理署	瀧本隆太		
16	法面緑化における間伐材を利用した獣害 対策について	安芸森林管理署	浜田淳史	松本充弘	（社）日本森林技 術協会理事長賞
17	木造住宅キット「れいほくスケルトン」 による嶺北産木材のブランド化の取組み	高知県嶺北林業振興事務所	諏訪貴信		四国森林管理局 長賞（最優秀賞）
18	ヒノキ人工林間伐試験地における間伐後 1年目の林分状況	（独）森林総合研究所四国 支所	宮本和樹 奥田史郎	野口麻穂子 伊藤武治	（審査対象外）
19	愛媛県における高度経済成長期以降の農 地の森林化面積の推定	愛媛大学農学部	前田佳子		
20	四国増殖保存園における根切り試験	（独）森林総合研究所林木 育種センター関西育種場	長谷部辰高 藤原優理	山野遼太郎	（審査対象外）
21	製品生産事業等における未利用材（端尺・ 枝条等）の有効活用について	香川森林管理事務所 大西建設（株）	神門淳子 杉本吉久		
22	民国連携による森林整備の推進 ～共同 施業団地での作業道・間伐の事例～	徳島森林管理署 （社）徳島県林業公社	森浦由照 亀井貴志		